

# 11

NOVEMBER

- 3 [金・祝]—5 [日] 高校生と創る演劇  
『ガンボ!それはフクザツな生まれの料理の名前 あるいはフクザツな生まれの あたしらの歌』●PLATアールスペース
- 4 [土] 2017カワイ大正琴フェスティバル全国大会 in 豊橋●PLAT主ホール
- 7 [火] 0歳からのジャズコンサート●PLATアールスペース
- 11 [土] くらときフェス2017 ~くらしときめきアカデミー合同発表会~●PLAT主ホール
- 14 [火]—15 [水] 市川海老蔵『古典への誘い』●PLAT主ホール
- 18 [土] グロトリアンピアノ魅惑のサウンドコンサートⅢ  
『ドラマティックピアニスト はちまん正人 グロトリアンピアノコンサート』●PLATアールスペース
- 19 [日] 第60回豊橋邦楽大会 日本舞踊の部●PLAT主ホール
- 19 [日] DIR Toyohashi 2017●PLATアールスペース
- 28 [火]—30 [木] 豊橋演劇鑑賞会 第263回例会 劇団東演『検察官』●PLAT主ホール
- 11/30 [木]—12/6 [水] 穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース『荒れ野』豊橋公演●PLATアールスペース

# 12

DECEMBER

- 2 [土]—3 [日] 劇団第五会議室 10周年記念 第6回公演『聖夜の道化師 2017』●PLAT主ホール
- 4 [月] 立川志の輔 独演会●PLAT主ホール
- 8 [金] 朗読劇『線量計が鳴る』●PLATアールスペース
- 9 [土] 春風亭昇吉 独演会●PLATアールスペース
- 9 [土]—10 [日] メ〜テレ開局55周年記念『この熱き私の激情~それは誰も触れることができないほど激しく燃える。あるいは、失われた七つの歌~』●PLAT主ホール
- 10 [日] ビティナ・ピアノステップ 豊橋12月地区●PLATアールスペース
- 12 [火] 豊橋技術科学大学防災シンポジウム●PLATアールスペース
- 14 [木] 大学・短期大学・専門学校 進学ガイダンス2017●PLATアールスペース
- 15 [金] 松元ヒロ ソロライブ●PLATアールスペース
- 17 [日] 小曾根真 featuring No Name Horses●PLAT主ホール
- 22 [金] PLAT Christmas Live 2017●PLATアールスペース
- 23 [土・祝] 豊橋おやこ劇場 高学年例会『オールライト』●PLAT主ホール
- 23 [土・祝] カメラータムジカール アンコールコンサート2017●PLATアールスペース
- 26 [火] フレスコの会 音楽発表会●PLATアールスペース
- 27 [水] 2017 ゆかり会 Petit concert ●PLATアールスペース

表紙/「荒れ野」  
撮影:伊藤華織  
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団  
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF  
平成29年10月発行 28号[隔月発行]



公益財団法人  
豊橋文化振興財団情報誌  
2017年11月-12月  
vol. 28



TOYOHASHI  
ARTS  
THEATRE  
PLAT

CONTENTS

表紙 「荒れ野」  
2

INTERVIEW:1  
「荒れ野」

桑原裕子・平田満「呼吸のようなやり取りをお見せしたい。」

4  
INTERVIEW:2

「三月の5日間」-リクリエーション-  
岡田利規「20年大事にしてきたこと。」

6

MESSAGE

立川志の輔 独演会  
立川志の輔師匠

「勉強はつきないですね」

8

TOPICS

小曾根 真

featuring

No Name Horses

小曾根真率いる総勢15名のビッグバンド

10

INTERVIEW:3

「ガンボ!それはフクザツな生まれの料理の名前  
あるいはフクザツな生まれの あたしらの歌」

青木 豪・稲葉賀恵・下司尚美・萩原亮介「高校生を語る。」

12

INFORMATION / PLAT 主催公演情報

14

ワークショップファシリテーター養成講座 / FOYER

平田 満のちよこつと エッセイ「バーバリーマカク」 / ESSAY

15

SUPPORT / TICKET CENTER

16

PLAT CALENDAR



——柿落しの『父よ!』以来5年、  
いよいよプラットフォーム公演としては  
2本目となる『荒れ野』ですね。

平田——柿落しは1回しかできませんし、記録に残るもので、とても嬉しかった。2本目は、それとは違った意味でのよさがあると思います。柿落しの時は、いろんな条件面でわがままも言えますが、2本目は、これでいろいろなもの定着し、新しい方向性が見えてくるのだろうなど、楽しみです。

——『父よ!』は再演や他での公演もありましたね。

平田——豊橋でも公演がもっとたくさん上演でき、東京を始め各地へ行けるようになったら、もっと観客層も広がり、認知もされ、お芝居としても育っていく。僕の関わる作品でなくてもいいので、そうやってほしいと思います。今回は最初が豊橋で、なおかつ他の地方にも行けるので、ひろがりができればいいなと思っています。本当の意味で豊橋発信になる、パイオニア的な感じがします。過渡期なので東京でも稽古して、豊橋でも稽古してですが、ゆくゆくは、稽古は豊橋になっていくことも、いいかなと思います。それに集中できるし、お客さんや周囲の人達に、間接的にも直接にも、今ここで作られるのだという感じがしてくると思います。その要素が垣間見ればいいと思います。

——地域の可能性はどのようにお考えですか。

平田——東京一極集中とか、何か一つの大きいところに集約されると、どこに行っても同じ、そして風景がどこも似ている。そういうのが楽しいか、面白いかと言ったらそのうちみんな飽きてくる。結局は東京も同じような人たちが同じようなことをしていたら、何の魅力もない町になってしまう。どこの地域でもいい、意欲のある人が何か作っていく、そういう素地が必要です。たまたま僕らは演劇ですが、それ以外でも、それが東京や世界に行っても、地元に残ってもいい、他の地域と連携してもいい。そう思えば、いろんな可能性が出てくる。でもやらなければ何にも始まらない。まずは細々とでもつくり続けていけたらいいなと思います。

——5年目という節目のその時に  
作・演出されることになりました。

桑原——豊橋のPLATができたばかりの時から、「いつかここで」と思いながら、何年も経ってしまって、去年初めて劇団で立てました。「もう、5年も経ったのか」という思いと、その年に自分の作・演出で、しかもとよはし芸術劇場PLATのプロデュースは光栄です。思いもかけなかったし、嬉しい分怖さもあります。

——今回の『荒れ野』はどのようなお話ですか。

桑原——舞台となるのは東京郊外より、少し地方都市というか、新興住宅地です。様々な理由で開発が頓挫してしまっただけで、新興住宅地と昔ながらの団地が町を二分するようにしてあります。そこに住む地元民たちは、



「呼吸のようなやり取りをお見せしたい。」

INTERVIEW:1

桑原裕子・平田満

芸術文化アドバイザーの平田満などベテラン俳優の出演と、  
鶴屋南北戯曲賞受賞の桑原裕子作・演出によるPLATプロデュース新作劇。  
作・演出



自虐的に自分たちの町を「荒野」と呼んでいて。そこで大きな火災が起こり、近隣の新興住宅地に住む人たちは避難しなくてはいけなくなった。その避難先というのがかつての団地仲間のお家で、その友達のところで過ごす一夜のお話です。

——女性が主体の話と聞きましたが、  
平田さんの役柄はどのようなものですか。

平田——主役があつてというのではなく、ただ視点として女性から見るといって、そういう意味合いで女性中心のお話。ちょっと焦点が女性にあたる。でも当然、登場人物で男性もいますし、若い人、ある程度の歳の人、そう

いう中での心理というか、心の動きができればいい。誰が主役ということはないのですが、思わず女性の方に目や関心がいってしまうことがあつていいと思います。

——今回の作品の構想や思いをお話してください。

桑原——今回は、ギュッとした空間で作れる舞台で、信頼できる強い俳優さんたち6人が揃っている。その贅沢さを堪能したいと思う。例えば、肩についた埃を誰かが取ろうとする、その瞬間をお客さんが固唾をのんで見守るような、そんな繊細なことをちゃんとできたら、とても贅沢な体験だなと思います。私は構成を気にして脚本を書いてきたのですが、もっと揺らぎみたいなのに対して直観的に書くこともやってみたいという思いはありました。タイトルは『荒れ野』ですが、人間の心の中にある荒野(こうや)を書きたかった。子供の頃は青々と生い茂る自分の中の大地があつて、そこに木が生えて育って、今もまだ育ち続けていて、だけど一部分、育たない場所が心の内側にできているのを、この歳になっても感じて。その空洞をもう少し突き詰めることができないか。

——最後に豊橋の方にお声をかけてください。

平田——豊橋を舞台にした豊橋の歴史というものではない、むしろ普遍的とかどこの地方でも起こりうる人間のお話です。そういう意味で土着的な地域性はないのですが豊橋のPLATを最初の舞台に産声を上げることはとても印象深いと思います。その瞬間を見ていただけたら嬉しいし、演劇に興味のない方も豊橋で今こういうふうにして作っているということ、これからこういう試みをどんどんやっていくので、注目していただければと思います。

桑原——自分のことをあえて客観的に見ると、桑原裕子という作家の舞台は比較的とつきやすく、演劇をあまり見てこなかった方も、演劇を観て難しかったなという人にも、ひょいっと入って、観ていただけるタイプの芝居だと思うのです。そのうえで、「あ、これって私だ」と皮膚感覚で体感してもらう瞬間があるという気がします。20代から60代までのキャストがいますので、どこかしら重なる登場人物がいるのではと思いつつ、演劇でしか見られない特別な時間も味わってもらえたらいいなと思っています。

桑原裕子[くわばら・ゆうこ]／東京都出身、KAKUTA主宰・作・演出・俳優。高校時代に平田オリザ演出「転校生」で女優デビュー。劇団外でも、福原充則演出「俺節」や人気劇団などへ多数出演。2011～13年までプロデュース「ビューティフル・ピーターパン」の潤色・作詞・演出を担当。脚本家としては舞台・映像・ラジオ・ノベライズ小説・ゲームシナリオと様々な分野に脚本を提供。09年KAKUTA「甘い丘」再演で第64回文化庁芸術祭・芸術祭新人賞(脚本・演出)を受賞、14年KAKUTA「痕跡(あとあと)」にて、第18回鶴屋南北戯曲賞を受賞。

平田満[ひらた・みつる]／愛知県豊橋市出身。穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化アドバイザー。つかこうへい事務所にて俳優活動をスタート。映画・テレビ・舞台などに数多く出演。映画「蒲田行進曲」で日本アカデミー賞主演男優賞など受賞。主な舞台に『白蟻の巣』『星回帰線』『熱海殺人事件』など。『海をゆく者』、『失望のむこうがわ』で第49回伊國屋演劇賞受賞。2005年よりアル☆カンパニーを設立。『父よ!』『失望のむこうがわ』などを制作。

作・演出＝桑原裕子  
出演＝平田満、井上加奈子、増子倭文江、中尾諭介、多田香織、小林勝也  
[豊橋公演] 11月30日[木]～12月6日[水]  
会場＝PLATアールスペース  
[東京公演] 12月14日[木]～12月22日[金]  
会場＝SPACE 雑遊  
日時詳細は12頁参照

プラットフォーム開館5年記念事業 穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース

「荒れ野」



PLAT 小劇場シリーズ  
チェルフィッチュ

# 「三月の5日間」 —リクリエーション—

作・演出＝岡田利規

出演＝朝倉千恵子、石倉来輝、板橋優里、渋谷采郁、中間アヤカ、米川幸リオン、渡邊まな実

2018年1月27日〔土〕・28日〔日〕14:30開演

会場＝PLATアートスペース

岡田利規[おかだ・としき]／演劇作家・小説家・チェルフィッチュ主宰。1973年横浜生まれ、熊本在住。97年に「チェルフィッチュ」を旗揚げ。2005年に『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞。07年デビュー小説『わたしたちに許された特別な時間の終わり』を新潮社より発表し、翌年第2回大江健三郎賞を受賞。15年初の子ども向け作品KAAT キッズプログラム『わかったさんのクッキー』の台本・演出を担当。翌年、PLATアートスペースで上演。16年よりドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシュピレのレパートリー作品の演出を3シーズンにわたって務める。

## INTERVIEW:2

聞き手 矢作勝義 種の日とはし芸術劇場ラボ」芸術文化プロデューサー

### 岡田利規「20年大事にしてきたこと。」

2005年岸田國士戯曲賞を受賞し、日本現代演劇界に大きな衝撃を与えたチェルフィッチュの代表作を20代前半の若いキャストとともに再創作。演出

矢作——チェルフィッチュが今年20周年を迎えました。岡田——つくづく不思議だと思います。20年、演劇ができたのは本当に運が良いと感謝するばかりです。

矢作——何故、演劇をやろうと思われたのですか。

岡田——好きだったわけではないのです。映画がやりたいくて、大学のサークルに入ったら、そこは演劇の活動が盛んで、なんとなく僕も演劇を始めました。卒業した時に、もうちょっと続けたら何か見つけられる気がして作ったのがチェルフィッチュです。

矢作——旗揚げした時にSTスポットだったのですか。

岡田——3回目からです。STスポットはコンテンポラリーダンスの様々な試みを熱心に紹介する劇場の一つだったのです。たまたま体を使ったおもしろい表現に触れた経験や機会がなければ『三月の5日間』は無かったですね。

矢作——身体性と戯曲の言語性が、結実したのでしょうか。

岡田——戯曲で採用している文体を何回か継続したその先に『三月の5日間』があり、明確な結果が出た作品だとは、初演の時から感じてました。岸田戯曲賞なんでものは自分とは全く関係のない世界だと思ってましたから、季節が来てもソワソワすることは無かったのですが、連絡が来たので提出しました。

矢作——受賞され、海外にも行かれましたが、どう評価されると思っていましたか。

岡田——日本語がとても重要な要素で、体の動きがユニークかもしれませんが、それはしゃべる内容との結びつきが重要なので、分からないに違いないと思っていました。でも、おもしろがつてもらえた。

その後、国際共同制作の話や、多くの海外公演などで、広がる可能性に対して、せっかく貰った機会なので、発揮させたいとは当然思っていました。最初は大変でした。上手くいかなかったと感じた時もありました。でもそれで終わらなく、その後もチャンスをもたらえたのも運が良かったと思います。

矢作——日本語が通じない人達に

普及した理由は何故だと思われませんか。

岡田——世界の在り様がグローバル化され、多文化主義的な考え方が一般的になっていることが大きいと思います。もちろん良い俳優、良いスタッフであって欲しいのですが、例えば日本の俳優と共有できたり実現できたものが、実現できないことに苛立ちはないです。では何ならおもしろいことができるのかを見つければ、新しいものが作れる。それは日本の俳優とは作れないものを作れるということでもある。日本の人と作れているものを、例えばドイツの人と作ったというのは別に興奮するようなことではないと思います。

矢作——この20年で大きく変わったことはありますか。

岡田——想定する観客が変わりました。例えば『三月の5日間』の東京の初演の後の神戸で、言葉に東京感がすごく強いと一部で反感をかい、びっくりしたのです。それは、それ以外の人達を排除している意識さえない状

態から、例えば日本語は分からない人や、日本の社会の状況を生きておらず、その状況が分かるわけではない人達に見せる状態になるわけで、そうすると日本語が分かり、東京に住んでいるという観客像では今やなくなってしまう、その後、例えば『わかったさんのクッキー』のような、子どもに見てもらえる作品を作れるようになったのも、実はそういう変化があったからだだと思います。

矢作——今回、若い俳優、それもオーディションで7人を選ぶというプロセスをとった理由は。

岡田——まず単純に若い人達と出会いたかった。それと海外の公演が多かったため、活動の仕方が、舞台俳優のフォーマルな感じと相性がよくない。良い役者と仕事したいが、そういう理由で活動の仕方が合わないと困る。だったらそういう舞台俳優の活動の仕方を知る前の人に、手をつけるといいのではと思った。あとは、僕らがいろんな場所で公演をさせてもらっていることはすごく糧になっているので、それを若い人達とシェアし、財産になることを提供できたらなという気持ちもありました。

矢作——10年前の『三月の5日間』を、今の時代にどうマッチングさせようと考えておられますか。

岡田——7月の頭に一週間豊橋に滞在し、その間にテキストを書き換えました。で、そのポイントの1つは、10年前は現代劇というか、今の話を今書いただけなのが、それが10年経ち時代劇になっている。それは何とかしなければいけない。そんなことに関係なく、たくましが演劇自体にあるから、気にしないでいいのかもしれないのですが、今それがどちらなのかと検討しながらやっています。あと、僕自身変化しているのですが、当時大事にしていたことに近づいていくつもりで、今の自分に近づけた書き換えはしないように思っています。

矢作——5年先、10年先を見越して何かを考えているのでしょうか。

岡田——オーディションの第一次面接で、野心のある人とだけやりたいと思って「あなたの野心は何ですか」と聞きました。上手くても、「特にありません」という人は選ばないと決めていて。で、彼らに野心があることはまず信用している。具体的にどんなものかは重要なことではない。例えば、今はまだ若いし、今は役者しかできないが、将来役者ではない方に向かいたいのかもしれない、みたいなことを言った子はすごく良いと思う。もちろん、これ以外の作品でも一緒にやれたらなという人がいたら嬉しいとは当然思っていますが、でも別に僕とでなくても、演劇でなくてもいい。今回これを通して彼らに経験なり機会なりを与えることができたことが何かに繋がったら本当に嬉しい。

矢作——この先、岡田さんの野望は何でしょうか。

岡田——決定的に新しいものが作りたいですね。で、それが何なのかは分からないのですが、作りたい。というのも、それによって何かそれでないといけない世界の描写の仕方というのがあると思っているのですが、野望としてすごすぎて、簡単にできることかどうか分からないが、やりたいです。



# 立川志の輔 独演会

12月4日[月]18:30開演  
会場=PLATホール



お陰様で、劇場も成長しています!!

「落語家にとって大事なのは、お客様と分かちあえる時間が早く来て、集中させてくれる、この一体感を持てる劇場はありがたい!! 一体感程重要なものはないんですよ。」我々にもありがたいお言葉です。

落語に対して試行錯誤する立川志の輔師匠の姿勢は、我々の励みにもなっています。この4年間、毎年豊橋にお越しいただき、劇場もスタッフともども成長させていただきました。

ここに、PLAT開館5年を祝うトーク&コンサート(2017年4月30日・主ホール)に届いた「ビデオメッセージ」を掲載いたします

《PLAT開館5年を祝う紙面メッセージ》

「豊橋のみなさん、こんにちは。立川志の輔でございます。実は私も4年前に柿落して呼んでいただきまして、この素晴らしい空間を味合わせていただきました。大きい劇場というのは日本各地に沢山ありますが、このプラットのような非常にコンパクトな、そして気が通るような空間はなかなかありません。お客さんと一体となれる空間を一番大事にしていくと、このプラットのようなサイズになると思います。なかなか建ちにくいんですが、それを豊橋が創ったと、それを5年維持されまして、私も柿落してから2年、3年、4年と呼んでいただきまして、今年は12月4日に、また、皆様は御目もじできることになっております。よろしかったら、皆さまお誘いあわ

MESSAGE

せの上お越しいただきたいと思います。また、プラットならではの演目を考えまして、皆さまに喜んでいただけるよう、頑張ってみようと思います。

なんですか、家に居ればテレビ、インターネット、何でも見られるこの時代に、わざわざ足を運んで、お金を払って、そして、その空間の中に居るという価値というのは、その意味は一体何だろうと言う位に、アナログな感じなんです。そのアナログですが、出かけて行って、座って、自分で観る、聴くしか生まれない…何かがあるんでございます。ですから劇場はなくなるんじゃないんです。そして劇場は進んでいくんです。どうぞプラットを大事にしてください。そして一番大事なことは…立川志の輔、12月4日独演会。どうぞよろしくお願いいたします!!(4月16日(日)富山「てるてる亭」公演終了後に収録)

『8月19日』

日本中、いや海外まで公演に出かけ、テレビ・ラジオにもご出演なされ、新作落語も作り、地元富山での活動も続ける志の輔師匠を追って富山まで出向きました。

富山市中央通りにある「てるてる亭」で月に一度行われる「志の輔の試み」は、師匠にとっては、レーザーの「ピットイン」、船舶の「ドッグ」のような地元に戻り心身をリフレッシュさせ、新たな思考をめぐらす実験場と言ってもいいのではないのでしょうか。さて、今日は志の輔師匠の「てるてる亭」公演はお休みでして、年に一度行われる「越中座」公演の富山県民会館ホールにお邪魔しました。公演の合間の30分のお時間を頂き、楽屋口から11時に伺い下手の舞台袖から仕込み作業を見学してまいりました。サウンドチェックの最中でお弟子さんの志の磨さんが高座に上がり、手をたいたり、落語の一節を喋りマイクチェックの細かい指示を出すのは師匠のいつもの光景でした。「ええと…舞台前に蹴込み、地がすりがあったら敷くことできる?」舞台監督さんが裏から運び込んで敷いていきます。「前、すこし足せないかな〜」「一枚しかないです…」「うん、落ち着いた。でも…黒パンチがあれば敷き詰めた。」スタッフ、素早く動く。そのあとにゲストコーナーの出入り、スクリーン、暗転幕上げ下げタイミングを数回確認。今回初ご出演の特別ゲストさんをお迎えですから、入念に繰り返されます。「素晴らしい、素晴らしい。ありがとう!完璧ですよ!」「うん、これで終わりにする。」開演前は演出家、プロデューサーの役割を担ってらっしゃるのですね。的確に細やかに指示を出しながら、スタッフに「ありがとう」と言葉をかけて、客席から上がってらっしゃる。そしてご自分の楽屋に向かわず、その足で楽屋入りしたゲストの方にご挨拶。頭が下がりますね。

《終演後に楽屋で》

昼夜公演の間にインタビュー時間を割いていただけることになり、昼公演を観劇後、私はロビーで購入した本を一冊「古典落語100席」(立川志の輔 選・監修)を持参し、楽屋に向かいました。

志の輔——落語家は何百人もいるのに、毎回プラットに独演会で呼んでくれるのはありがたいけど、何故、何でだろう?って。

中島——それは、人にはそれぞれ物語があるように、劇場にも物語が必要だと思っているからです。芸術は人から人へと伝わっていくものでしょ、師匠の口癖「当たり前をあたり前にやるのが実は一番難しい。だから繰り返すことの大事さを忘れずに、古典から学んでいる」と。師匠の落語を通じて、観客は自分自身を見つめなおしていると思えるんですよ。

「時代を映す鏡」。古典はいつも新しいものになる力があるんじゃないですか?

志の輔——そうかあ〜、どうだよね〜。同じ人が何回やってもシェイクスピア作品は古びないものね。

中島——今日の師匠の演目であった、何気なく使っている言葉! わたしたちもよく使うから…。隣の車いすのおばあちゃんも声をあげて笑ってましたよ〜。よく思いつきましたね。変な日本語です、使うタイミング次第では相手を怒らせかねないですね。

志の輔——ほんとにね。日本語の面白さ、これに尽きるね。言葉の裏にあるものを考えるとね、例えば、「ありがとう」「すみません」「どうも」。気持ちを伝えるにしても、いくつかの表現の言葉がありますね。使うタイミング、異なる言葉を選ぶだけで、全く異なる感情が表現できるし、人格がくっきりしてくるんですよ。言葉遣いは特に、勉強はつきないですね。

中島——実は、本日ロビーで購入した本に、今日伺ったことのすべてが書かれているんです!

志の輔——じゃあ、抜粋してかまわないよ。

中島——もう夜の部の客入れも始まりましたね。どうもありがとうございました!

と、言う訳でお話を切り上げ、転載のお許しを頂き劇場を後にしました。

「もし今あなたが思い悩んでいることがあるとすれば、この百の落語の中に必ずとっくりのパターンのものがあるはずなんです。人間割り切れれば悩みません、割り切れないから悩みなんです。そういう状況下にあっても、落語の登場人物たちは見事にいきいきと乗り切る、それを見ている私たちは思わず笑ってしまう。そして、アナタはふと「そうかあ、俺の今の状況はこういう事だったのか」ということに気づくはずなんです。

人間に江戸も明治もありません。それどころか、昔の人たちの方がよっぽど豊かに生きていたな、と思うに違いありません。だから今も落語は生きつづけているのです。生の落語を聞いてください。アンタの人生変わるかもしれません、大げさではなく。

『古典落語』に息を吹き込むのは落語家自身の人間性なんです。それは話術や技量だけでは表現できないものです。」

(「古典落語100席」(立川志の輔 選・監修)まえがきより)

古典・新作問わず落語に新しい息吹を吹き込む  
立川志の輔師匠「勉強はつきないですね」  
聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLAT シニアプロデューサー

立川志の輔[たてかわし]のすけ/1954年、富山県出身。明治大学卒業後、劇団所属、広告代理店勤務を経て、'83年、立川談志門下入門。'90年、立川流真打昇進。落語家として様々な会場で行う独演会スタイルを確立。全国各地や海外でも公演を行っている。独自の視点で創り上げる新作落語を数多く生み出し、『歓喜の歌』は映画化された。テレビではNHK「ガッテン!」の司会者や、ラジオでは文化放送「志の輔ラジオ 落語DEデート」を続けている。





# 小曽根真

## featuring No Name Horses

出演＝小曽根真 feat. No Name Horses(ビッグバンド)  
12月17日[日]17:00開演  
会場＝PLAT主ホール

世界最大のジャズコンベンション「IAJE(国際ジャズ教育協会)NMM」で  
スタンディング・オベーションによる大喝采を浴びた  
小曽根真率いる総勢15名のビッグバンド



## MEMBER

小曽根真  
Piano  
エリック宮城  
Trumpet, Flugelhorn,  
Piccolo Trumpet  
木幡光邦  
Trumpet, Flugelhorn  
奥村晶  
Trumpet, Flugelhorn  
岡崎好朗  
Trumpet, Flugelhorn  
中川英二郎  
Trombone  
マーシャル・ギルクス  
(Marshall Gilkes)  
Trombone  
山城純子  
Bass Trombone  
近藤和彦  
Alto Saxophone,  
Soprano Saxophone, Flute  
池田篤  
Alto Saxophone, Flute  
三木俊雄  
Tenor Saxophone  
岡崎正典  
Tenor Saxophone, Clarinet  
岩持芳宏  
Baritone Saxophone,  
Bass Clarinet  
中村健吾  
Bass  
高橋信之介  
Drums

いまやジャズのみならず音楽業界を牽引する存在でもある小曽根真さんはPLAT開館前の2010年から豊橋でコンサートを行い、2013年のPLAT開館記念式典では、PLATのフルコンサートピアノであるグロトリアンピアノとスタインウェイピアノの2台演奏を行っていただきました。以降、継続的にコンサートを開催してきましたが、今回はピアニスト小曽根真が率いる総勢15名のビッグバンド。メンバーはいずれも日本を代表するミュージシャンで、自身のバンドにてリーダーを務めるトップ奏者が集結している。

2004年、小曽根がプロデュースした伊藤君子(シンガー)のアルバム『Once You've Been In Love 一度恋をしたら』のレコーディングのために結成。当初はこの録音のためだけの臨時編成であったが、ハイレベルなサウンドに大きな手応えを感じた小曽根は、継続して活動することを決意。

2006年にファースト・アルバム『No Name Horses』を発表。小曽根を中心にメンバーが自作を持ち寄り、全

曲インストゥルメンタルという強力作。オリジナル作品をレコーディングしコンサートを行っているビッグバンドは世界的にも稀である。同年1月、世界中から万人を越える音楽関係者が一同に集う世界最大のジャズ・コンベンション「IAJE(国際ジャズ教育協会)」(ニューヨーク)で演奏し世界デビューを果たす。スタンディング・オベーションによる大喝采を浴びた。

2008年3月、セカンド・アルバム『No Name Horses II』を記念し約1ヶ月の全国ツアーで熱いステージを繰り広げた。2009年5月、ラテン音楽をテーマにサード・アルバム『JUNGLE』をリリース。同年夏には、フランスのラロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭とスコットランドのエジンバラ・ジャズ・フェスティバルに出演し、高い評価を得る。翌2010年7月、ウィーンおよび仏ラロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭にて演奏。2011年秋、全国ツアー「ラプソディ・イン・ブルー」(全10都市)を成功させ、2012年3月にはシンガポールにて公演を行った。2012年には、全国ツアー「Road」(7公演)を

行い、小曽根による同名の新作を初演。2014年、結成10周年を記念し、アルバム『ROAD (Rhapsody in Blue 同録)』をリリース。同年9月には、東京JAZZにてクリスチャン・マックブライド・ビッグバンドと合同演奏を行うほか、結成10周年記念ツアー(全12公演)を実施し大成功を収めた。

2015年12月には、小曽根がプロデュースを務めるBunkamuraオーチャードホールのクリスマスコンサートにて「シンフォニック・ジャズ モーツァルト×ガーシュウィン」を実施。小曽根編曲による「モーツァルト:ピアノ協奏曲第9番『ジュノム』」を、日本で初めてビッグバンド・ヴァージョンで演奏する。クラシックの世界でも活躍の幅を広げる小曽根真の“真骨頂”として各方面より賞賛を受けた。また、同公演ではスペシャルゲストとして世界的トロンボーン奏者であるジョセフ・アレッシ氏(ニューヨーク・フィル首席奏者)を招き、音楽のジャンルを越えたコラボレーションを行うなど、留まることのない第一線での活動に注目が集まっている。

小曽根真[おぞね・まこと] / 1983年にバークリー音楽大学ジャズ作・編曲科を首席で卒業。同年、米CBSと日本人初のレコード専属契約を結び、アルバム「OZONE」で全世界デビュー。2003年にグラミー賞にノミネート。以来、ジャズ・ピアニストとして世界中のトッププレイヤーとの共演や、自身のビッグ・バンド「No Name Horses」を率いて、ジャズの最前線で国際的に活躍。またクラシックにも取り組み、国内外のオーケストラとの共演を重ねている。国立音楽大学ジャズ専修教授。









**託児サービス対象公演**  
要予約。生後6ヶ月以上。  
お一人様¥500。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで

**マイセレクト4 対象公演**  
マイセレクト **4**

### チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

- 劇場窓口・電話 0532-39-3090 [休館日を除く 10:00～19:00]
- オンライン http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]

### U24・高校生以下割引ご案内

- ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
- 料金＝U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:一律1,000円
  - 購入方法＝各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
  - その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

立川志の輔 独演会



東京交響楽団演奏会



©N.Ikegami

新倉 瞳 ©Takaaki Hirata

ナイン・テイルズ～九尾狐(クミホ)の物語～



宮川彬良

昆 夏美

小野田龍之介

JKim

シャンハイムーン



広末涼子、野村萬斎

ワークショップファシリテーター養成講座2017後期



「まちに聞く、考える」発表会

ダンス・レジデンス



平井優子

11/3 [金・祝]・4 [土] 13:00開演 / 18:00開演

11/5 [日] 13:00開演

高校生と創る演劇 **好評発売中**  
「ガンボ! それはフクザツな生まれの料理の名前 あるいはフクザツな生まれの あたしらの歌」

●作＝青木豪 ●演出＝稲葉賀恵 ●出演＝オーディションで選ばれた高校生 ●会場＝PLAT アートスペース ●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付] 一般2,000円、高校生以下500円ほか

11/14 [火]・15 [水] 13:30開演 / 17:00開演

市川海老蔵「古典への誘い」

「伝統芸能をわかりやすく」をテーマに市川海老蔵が企画。江戸一番の男伊達・五郎蔵と傾城の逢瀬を踊りに託して描く『男伊達花廓』ほか二本立てをお贈りいたします。●演出＝新古今劇十種の内「身替座禪」、『男伊達花廓』●出演＝市川海老蔵、片岡市蔵、市川九團次、大谷廣松ほか ●会場＝PLAT 主ホール ●料金＝S席11,000円ほか ●追加販売決定。10月21日(土)10:00～プラットチケットセンター電話予約のみ。(限定枚数)

11/30 [木]～12/22 [金]

プラット開館5年記念事業

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT プロデュース

「荒れ野」 **好評発売中**

●作・演出＝桑原裕子 ●出演＝平田満、井上加奈子、増子倭文江、中尾諭介、多田香織、小林勝也 ●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付] 一般4,000円ほか

【豊橋公演】



【東京公演】



12/4 [月] 18:30開演

立川志の輔 独演会

●出演＝立川志の輔 ●会場＝PLAT 主ホール ●料金＝[全席指定] 一般4,000円ほか ●前売予定枚数終了:当日券については11月中旬以降にお問合せ下さい。

12/17 [日] 17:00開演 **好評発売中**

小曾根真 featuring No Name Horses

●出演＝小曾根真 feat. No Name Horses (ビッグバンド) ●会場＝PLAT 主ホール ●料金＝[全席指定] S席一般6,600円、ユース3,300円/A席一般5,000円、ユース2,500円

2018/1/20 [土] 13:00開演 / 18:00開演

21 [日] 13:00開演

プラット開館5年記念事業

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT プロデュース

ミュージカル「ナイン・テイルズ～九尾狐の物語～」

ミュージカル界きっての実力俳優たちを迎え、美しく力強い音楽とともに、千年を生き九つの尾を持つ伝説の九尾狐[クミホ]と人間の究極の愛を描きます。●原作＝金は佑 ●音楽監督・作曲＝宮川彬良 ●構成・演出＝田尾下哲 ●振付＝平山素子 ●出演＝昆夏美、小野田龍之介、JKim [ジェイキム] ほか ●会場＝PLAT 主ホール ●料金＝[全席指定] S席7,000円、A席6,000円ほか

2018/1/27 [土]・28 [日] 14:30開演

PLAT 小劇場シリーズ

チェルフィッチュ

「三月の5日間」-リクリエーション-

2005年岸田國士戯曲賞を受賞し、日本現代演劇界に大きな衝撃を与えた岡田利規/チェルフィッチュの代表作。活動20周年を記念して、20代前半の若い新キャストとともに再創作。●会員先行＝10月28日(土) ●一般発売＝11月11日(土) ●作・演出＝岡田利規 ●出演＝朝倉千恵子、石倉来輝、板橋優里、渋谷采都、中間アヤカ、米川幸リオン、渡邊まな実 ●会場＝PLAT アートスペース ●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付] 一般3,000円ほか

2018/2/11 [日] 16:00開演

東京交響楽団演奏会 **ライブポートとよはし**

曲目＝チェロ協奏曲(ドヴォルザーク)、交響曲第6番「田園」(ベートーベン)ほか ●会員先行＝10月7日(土) ●一般発売＝10月21日(土) ●指揮＝飯森範親 ●チェロ＝新倉瞳 ●管弦楽＝東京交響楽団 ●会場＝ライブポートとよはし コンサートホール ●料金＝[全席指定] S席4,500円、A席3,000円ほか



「ナイン・テイルズ」

2018/3/3 [土]・4 [日] 14:30開演

市民と創造する演劇

「とよはしの街の物語2(仮)」

2017年3月アートスペースにてミュージカルスタイルで上演した「とよはしの街の物語『はしっ子』」を、主ホールへ会場を移し、新たに決まった市民出演者とともに再創造したとよはしの街の物語をお届けします。

●会員先行＝2018年1月6日(土) ●一般発売＝2018年1月20日(土) ●作・演出・音楽＝糸井幸之介 ●ドラマツルク＝木ノ下裕一 ●出演＝オーディションで選ばれた一般市民 ●会場＝PLAT 主ホール ●料金＝[全席指定] 一般2,000円ほか

2018/3/10 [土] 19:00開演・11 [日] 14:30開演

PLAT 小劇場シリーズ

北九州芸術劇場プロデュース

「彼の地Ⅱ」

演出家が北九州に滞在し「北九州」をモチーフに作品を創る北九州芸術劇場プロデュースシリーズ最新作がPLATに初登場。PLATプロデュース『荒れ野』でも作・演出をつとめる桑原裕子が、街の匂いがする群像劇を描きます。●会員先行＝2018年1月13日(土) ●一般発売＝2018年1月27日(土) ●作・演出＝桑原裕子 ●会場＝PLAT アートスペース ●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付] 一般3,000円ほか

2018/3/23 [金] 18:30開演

3/24 [土] 12:00開演 / 17:00開演

「シャンハイムーン」

井上ひさしによる評伝劇の最高峰! 1934年、激動の中国を舞台に、日本を憎みながらも日本人を愛した中国人作家・魯迅とその妻、をして彼らを匿した日本人を緻密に描いたせりふ劇に、野村萬斎をはじめとする実力俳優陣が挑みます。●会員先行＝11月25日(土) ●一般発売＝12月9日(土) ●作＝井上ひさし ●演出＝栗山民也 ●出演＝野村萬斎、広末涼子、鷲尾真知子、土屋佑壺、山崎一、辻萬長 ●会場＝PLAT 主ホール ●料金＝[全席指定] S席8,500円、A席6,500円、B席4,000円ほか

若手音楽家育成事業

プラットワンコインコンサート **好評発売中**

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのコンサートです。500円で贅沢をひとときをお過ごしください。●会場＝PLAT アートスペース ●料金＝[全席自由・整理番号付] 各回500円

10/19 [木] 14:00開演 「踊り、演ずるピアノ曲～編曲作品を中心に～」

竹田江梨子(ピアノ)

2018/1/11 [木] 19:00開演 「心躍るリズムとメロディの世界」

Le deux mai [ル・ドゥーメ] 香名大地(打楽器)、鈴木結花(ピアノ)

2018/2/28 [水] 19:00開演 「音の降る夜」

Ensemble Chouette [アンサンブル・シュエット] 加藤英子(オーボエ)、勝田千尋(クラリネット)、古川真帆(ファゴット)、井上陽葉(ピアノ)

■関連企画

12/22 [金] 13:00開演 / 18:00開演 「PLAT Christmas Live 2017」

井垣壮太(ピアノ)、平手裕紀トリオ(ピアノ&トランペット、ベース、ドラム) ●会場＝PLAT アートスペース ●料金＝1,000円(ワンドリンク付)

11/19 [日] 14:00開演

ワークショップファシリテーター養成講座2017後期

「まちに聞く、考える」発表会

受講生がまちあるきをして見つけたエピソードや、体験を短い演劇にして上演します。劇場の中に広がる小さな豊橋をご覧ください。

●出演＝ワークショップファシリテーター養成講座[後期]受講生 ●進行役＝すずきこた、柏木陽ほか ●会場＝PLAT 創造活動室A ●料金＝無料 ●定員＝40名程度(申込順) ●申込＝①プラットチケットセンター(電話0532-39-3090) ②劇場ホームページの専用申込フォームより

豊橋アーティスト・イン・レジデンス2017

「ダンス・レジデンス」

11/25 [土]～12/9 [土] 平井優子

公開企画 ①子ども向けワークショップ

●日程＝11月26日[日] 14:00～16:00 ●会場＝PLAT 創造活動室B

●対象＝小学1～4年生、10名程度、ダンス等の経験不問 ●10月21日(土)より受付開始・先着順 ●参加費＝無料

公開企画 ②成果発表会

●日程 12月9日[土](時間未定) ●会場＝PLAT 創造活動室B

※出演者募集あり(小学1～4年生)。詳細は劇場までお問合せ下さい。

12/19 [火]～27 [水]

Rie Tashiro (AYATORI)

公開企画 ①ダンスワークショップ

●日程＝12月22日[金]～24日[日](予定) ●会場＝PLAT 創造活動室A

公開企画 ②成果発表会

●日程＝12月27日[水](時間未定) ●会場＝PLAT 創造活動室A

※詳細は劇場までお問合せ下さい。



「ワークショップファシリテーター養成講座2017前期」

“小さな芽が出た”4年目の実感

豊橋や周辺の地域の人たちで小・中学校でワークショップを進行できる人材を養成する「ワークショップファシリテーター養成講座前期」も4年目を迎え、今年も多くの子どもたちが、成果発表の「ワークショップ縁日」で夏休み最後の日曜日を楽しんでいました。今企画で講師を務めるすずき一たさん、青山公美嘉さん、お二人に感想をいただきました。



青山——受講者はワークショップのプログラムを立てながら、どうやって子どもたちを楽しませるかに考え続けました。プログラム内のゲームの一つとつても、「このルール説明で十分か?」「この言葉使いで良いのか?」「説明が長すぎやしないか?」「このゲームでやりたいことは何か?」「ともともこのゲームの選択でいいのか?」と何度も何度も考え、別の受講者に参加してもらい、感想を貰って、再び考え何度も何度もトライし続けました。“演劇ワークショップを作る”一見簡単そうでは実は難しいこのミッション。がんばった甲斐あって当日の子どもたちの楽しそうな顔ったら!あの笑顔がメンバーにとって最高のプレゼントになったと思います。また子どもたちにとっても素敵な夏休みの思い出ができたんじゃないかと思っています。

すずき——ファシリテーターは、ともすると「参加者を楽しませる」「仲良くなる」ことを目標にしてしまいます。しかし「互いを尊重し合い、集った人たちで目標を共有し、目標に向って協働作業ができる」場をつくるのが、ファシリテーターの仕事だと私は考えます。例えば「だるまさんがころんだ」という遊び(ゲーム)のルールを説明するというのは、実は結構難しいことです。講座は、説明することを学ぶ場でもあります。今年、単に「ゲームのルールを説明する」というだけでなく、その先を見据えながら試行錯誤が出来た受講生たちだと感じました。4年間続けてきて、少し芽が出たなという実感です。「えんげきであとぼう」コーナーは、講座を過去3年間受講された方が中心となり2日間で短い演劇を子どもたちと作りました。PLATで育った、PLAT生まれのワークショップです。1つの小さな実ができた瞬間でした。

芸術文化アドバイザー

平田 満の  
ちよこつとエッセイ



第25回「バーバリーマカク」

この間テレビを見ていたら、バーバリーマカクという北アフリカに住む、絶滅危惧種の珍しいサルの特集がありました。特徴は、群れの大人がみんなで子ザルを育てることです。メスばかりか、父親でないオスや若いオスも競って子ザルの面倒をみるのです。育児ができて一人前だそうです。群れのオス同士で争いが起きると、劣勢のオスが優勢のオスに子ザルを抱いて差し出します。すると二匹と一緒に子ザルをなだめ、争いが収まるといいます。

なんと平和な種族でしょう。だから絶滅危惧種なのかもしれません。

自宅の近所に養護学校があり、ある仕事の準備で先生方にいろいろ障がいについて教えていただいたことがありました。その時知った言葉に「インクルージョン」というのがあります。意味は「包含」とか「一体化」ですが、教育、特に障がい児教育で使われている言葉です。簡単にいうとエクスクルージョン(排除)の反対で、排除しない、切り捨てない教育ということです。養護学校の先生方は過去行われてきた障がい児を分離する教育から、同じ学級で学ぶ統合教育を経て、それを一歩進めた、障がいのあるなしにかかわらず、子どもたち一人ひとりの差異を認めて多様な教育をするインクルージョン教育を目指しているそうです。人を障がい者と非障がい者に分けて、個別のニーズに合わせて教育するのは、今や世界の教育の潮流といえます。今まで軽視されてきた障がい児教育によって普通教育の改革を図ろうというのです。

バーバリーマカクのように、子ども一人ひとりを大事にすることが群れ全体の幸せになる…単純なことなのですがなかなか現実になっていません。バーバリーマカクの場合はきっと、母ザルも子ザルも雄ザル同士も、お互い了解し認め合っているからうまくいっているのでしょう。人間社会もそうなってほしいと切に思います。

最近、小さい子どもを見ると膝に乗せたくなるのは、私もバーバリーマカクの血を引き継いでいるからでしょうか?(ちよつと危ないおじさんですね)でも、大人の男たちがみんな小さな子どもを抱いているなんて、すてきな光景だと思いませんか?

知識製造業  
三遠機材株式会社  
http://www.san-en.co.jp

有限会社 魚伊  
電話 52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所  
代表取締役 竹尾 誠  
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 千440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332  
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 千435-0007 Tel.053-422-3628(代)

Gallery 48 呉服町48 TEL.54-4848

グロリアンピアノ地域特約店  
白羽楽器 株式会社  
電話053-464-3015

竹内産婦人科  
産婦人科 婦人科(不妊治療)  
豊橋市新本町23 (豊橋 竹内産婦人科) 電話053-464-3015

ケンチク ノボ  
KURONO ARCHITECT STUDIO  
y.qlo0170@gmail.com

看板広告 アラキスタヂオ  
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら  
精文館書店  
TEL.54-2345

医療法人慈豊会  
大島整形外科クリニック 院長 大島 毅  
東田町井原39の7(市電赤岩口終点前) 電話62-5511(代)

ONOCOM 株式会社 オノコム

株式会社 谷山建築設計事務所  
豊橋市西羽田町183 http://taniyama-archi.com

外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科  
伊藤医院 伊藤之一 伊藤文二  
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間  
巖きく宗  
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。  
豊橋調理製菓専門学校  
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)  
三菱東京UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行  
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行  
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

御茶屋菓子専門店  
若松園  
創業江戸  
御菓子司

気まぐれコンサート  
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心 安全な地下駐車場  
パ・カ500 ソウの親子の看板が自印  
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科  
塩之谷整形外科  
院長 塩之谷 昌 副院長 塩之谷 香  
豊橋市植田町関取54 電話 0532-25-2115(代)

豊橋名産 傘あくわ

井上皮フ科クリニック  
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00  
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝  
電話 0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。  
共和印刷株式会社  
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科  
医療法人 大岩整形外科・皮フ科  
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆  
書道用品専門店  
高誠堂  
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

本の豊川堂  
本店54-6688番/カルミア店55-2810番/アビタ店54-6351番

煉物專家  
ちよ花でん  
ココラフロント ホテルアークリッシュ 1F

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得  
株式会社 三光製作所  
三光精密工業株式会社  
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story  
物語コーポレーション

JEANS SHOP YAMATO  
豊橋 つつじが丘 / 豊川 千歳通り

生活にファインクオリティ  
sala

チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

電話・窓口  
0532-39-3090 [休館日を除く 10:00-19:00]  
オンライン  
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]

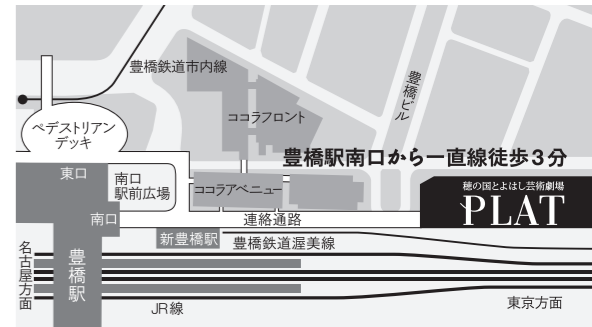


プラットフレンズ募集  
入会金・年会費無料

- 特典
- 1 公演情報をメールでご案内します。
  - 2 インターネットでチケット予約ができます。
  - 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
- ※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。  
料金  
U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額  
高校生以下:一律1,000円  
購入方法  
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。  
その他  
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。  
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。



千440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地  
電話=0532-39-8810[代表]  
開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。  
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。  
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、  
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。  
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、  
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT